

第2回岡山盲学校及び岡山聾学校の校舎等整備に係る基本構想検討委員会 議事録(概要)

開催日時:令和6年1月9日(火) 14:00~15:45

開催場所:ピュアリティまきび 飛翔

出席者:委員 11名

欠席者:無し

傍聴者:3名

<概要>

1 第1回基本構想検討委員会議事概要について

(事務局) 資料により説明

特に意見なし

2 基本構想(素案)について

(事務局) 資料により説明

【教育内容の見直し】

- (委員) 現在、岡山盲学校には幼稚部が設置されていない。全国的に見ても、幼稚部を設置していない盲学校の数は少ない状況であり、新しい学校では、幼稚部を設置してほしい。
- (委員) 多くの関係者から意見を聴き、一体型よりも併設型のほうが良いという話を聞いている。どうしても一体型で整備するというのであれば、併設の部分をできるだけ増やしてもらいたい。また、視覚障害のある子どもが聴覚障害のある子どもにいじめられたという過去の話先輩から聞いている。さらに、寄宿舎に関しては、過去に大きな災害があったことも踏まえ、避難誘導であるとか様々な具体的な対策についても詳細に決めていってほしい。
- (委員) 岡山聾学校の総合デザイン科ファッション・ヘアデザインコースヘア系を廃止することであるが、非常に残念に思っている。岡山聾学校は、1951年に理容師養成施設として厚生省から指定されているが、本来であれば高校を卒業し、理容師養成施設で学ばなければ、国家試験を受験できないところを、岡山聾学校では、高等部卒業後、専攻科を1年修了することで国家試験を受験できることになっている。ここ数年、入学者がいらないということで廃止ということだが、今後、入学を希望する者もいるのではないかと思う。また、近隣の理容師養成施設の専門学校等に対して、聴覚障害のある生徒の受け入れ体制の充実を、岡山聾学校や県から要請してほしい。

- (委員)先ほど、いじめの話があったが、この問題は、健常者間でもあることであり、教育現場での対応が大切である。岡山聾学校の職業科を今後どうしていくかは、個人的にははっきりとしたことが言えない。理容科を廃止するという話も出ているが、どういう職業科を残すかは非常に難しい問題である。職業選択の幅が拡大してきており、結論を出すのはなかなか難しい。
- (委員)いじめに関しては、いじめ防止対策推進法も制定され、何よりも優先的に対応すべきものであり、啓発もしっかりとする必要があると考えている。
- (委員)岡山聾学校では、児童生徒数が減少し、数年間継続して在籍者のいない学科があるという状況を課題と考えており、新しく校舎等を整備するにあたり、現在、校内に検討委員会を立ち上げ、職業科に関する検討を進めているところである。
- (委員)岡山聾学校では、PTAで各保護者に対してアンケートを実施した。その中で、主な3点の意見をお伝えしたい。まず1点目として、交流及び共同学習の推進に関して、本日の説明では、段階的、計画的に進めていくとのことであったが、保護者からは「交流について、聴覚障害のある子どもと視覚障害のある子どもがどのようにコミュニケーションを取るのかイメージできない。交流をメリットに挙げることに違和感がある。」などの意見があった。
- 岡山聾学校には、発声でコミュニケーションを取れる子どももいるが、全く聞こえない子どももいる。全く聞こえない子どもも安心して過ごせる学校環境を整備してほしい。
- 次に2点目として、総合デザイン科の各コースで情報と福祉に関する内容を充実することのだが、岡山聾学校の中学部を卒業する際に、大学進学を目指す者が高校に進学するケースもあることから、岡山聾学校の高等部から大学進学できるようなコースも検討してほしいとの意見があった。
- 最後に3点目として、総合デザイン科ファッション・ヘアデザインコースヘア系を廃止することについて、「残してほしい。どうして廃止するのか。」という意見があったが、逆に「在籍生徒がいないので仕方がない。」という意見もあった。廃止になるのであれば、致し方ないが、理容科・ヘア系を希望する生徒には専門学校等に進学しやすい環境をぜひ整備してもらいたい。
- (委員)私は、現在、岡山盲学校で地域支援の担当をしているが、インクルーシブ教育の流れの中で、就学前の視覚障害のある子どもが地域の小学校に就学するケースが非常に増えている。ただ、就学前に岡山盲学校と関わっていなかった子どもが、必要な支援を受けずに小学校に就学しているケースがある。岡山盲学校に幼稚部がないために、早期からの視覚障害のある子どもの支援をどの施設が責任を持って行っているかが不明瞭になっていると考えている。センター的機能を発揮していく上でも、岡山盲学校に幼稚部を設置してもらいたい。
- (委員)岡山聾学校の総合デザイン科の教育内容については、現在、校内の検討委員会で具

体的な検討を継続している。個人的には、理容業界も美容やネイルなど内容も幅広く
なっており、聴覚障害のある生徒が幅広く進路を選択できるような環境が整備されて
ほしいと思っている。

(委員) 一体型については、経費的な部分でメリットが大きいということで、賛成したところである。
職業課程の廃止というのは、本来であればもう少し慎重に議論すべき内容である
が、時代の流れの中で、専門的な教育は、地域で受けられるというのが大切であり、
受け皿を学校任せにせず、関係者が協力して地域に受け皿を求めていくことが重要
である。

(事務局) 幼稚部の設置については、現在、岡山盲学校で支援している乳幼児が数名いるとい
うことは把握しているが、その半数以上が岡山市を除く地域に居住している。また、令
和5年度の小学部の児童数が4名であり、来年度の小学部への就学予定者もない
状況であることから、現状を踏まえると、幼稚部を設置することは難しいと考えてい
る。ただ、引き続き、たんぽぽ教室における相談機会を増やすなど、センター的機能
の一層の充実を図りながら、未就学児への支援に努めてまいりたい。また、視覚障害
のある子どもへの早期からの支援については、市町村教委との連携をさらに一層深
めていく必要があると考えている。

いじめについては、障害の有無に関わらず、重大事案として対応すべきものであり、
現在も今後もしっかり対応してまいりたいと考えている。

総合デザイン科ファッション・ヘアデザインコースヘア系については、平成28年度
の学科改編時にも存続か廃止か様々な議論があったという記録が残っているが、今
後、理美容業界の関係団体等とも連携を図っていく必要があると考えている。

交流のイメージについては、新潟県の先進事例では、開校前に生徒会で交流し、開
校後に行事を一緒に開催するなどしている状況があると聞いており、今後、関係者で
しっかり検討を進めていく必要があると考えている。

また、進学できるコース開設の要望については、今年度、岡山聾学校から4年制大学
に進学した生徒もいることから、現在の岡山聾学校の教育課程は、進学に対応できる
教育課程になっていると考えている。

(委員) 職員室が共用となっている点について、大勢の教員と一緒に協議するというのは、難
しいのではないかと心配する。

(委員) 特別教室は、各教科で障害種別によって特徴があると思うので、今後、スペース等を
検討していく必要がある。また、体育館については、安全面を配慮して館内周囲にラ
バーを設置してほしい。運動場についても、安全面から周囲に芝を整備してほしい。さ
らに、プレイルームも整備してほしい。

最終的に、特別教室の共用か障害部門別かの判断は、両校の各教科の担当同士で
話をしなければ、判断できないのではないかと思います。

(委員) 共用の教室を増やすと動線が複雑になるので、安全面を考慮すると、できるだけ特別

教室は共用部分が少ないほうが良い。現状、岡山聾学校の特別教室は、例えば理科教室は、現状、小・中・高と3教室あり、教科によって複数の教室があり、同じ状況を確保できるとありがたい。

- (委員)岡山聾学校関係については、現有の教室数を確保してもらいたい。幼稚部は過去に水害を受けたこともあるので、その点に配慮した施設にしてほしい。運動場とは別に、運動できる中庭のような場所がほしい。プレイルームも整備してほしい。素案には明記されていない図書室や保健室についても共用と考えられていると思うが、どちらの障害にも対応できるよう、特に養護教諭の配置など含め、考慮してほしい。
- (委員)特別教室について、机などの配置は、視覚障害のある児童生徒に配慮したものになると考えているが、例えば理科室では、盲学校でしか使用しない道具などがあり、その道具などを収納できる場所が必要である。また、中庭や視覚障害のある児童が使用する遊具の設置もお願いしたい。
- (委員)保健室が共用になるのは気になる部分である。
- (委員)保護者アンケートでは、ICT 機器や学習支援機器が共用の特別教室にも設置されると考えているが、共用となる特別教室が1つで本当に重複せずに授業が実施できるのかという意見があった。また、音楽室などの防音について心配する意見もあった。さらに、寄宿舎でのコミュニケーション方法がどうなるのか心配であるという意見があった。岡山聾学校では、現在、2台のスクールバスが運行されているが、今後どうなるのか。車やスクールバスの駐車場での動線も心配であるという意見もあった。
- (委員)現在、岡山盲学校では、岡山駅方面のスクールバスが1台のみ運行しており、県北部や西部(倉敷方面)から通学する児童生徒もいることから、増便してもらいたい。
- (委員)特別教室については、学び方が異なることから、障害種別で分けてほしい。岡山盲学校でも多くの工夫された教材を使用し、保管にもかなりの容積を確保している状況があるので、障害種別で分けたほうが効率的ではないかと思う。一方、管理部門については、適切なリーダーシップを発揮していただく上でも、共用が望ましい。学校の周辺環境についても、岡山盲学校では、歩行指導もあることから、関係機関と連携して整備を進めてほしい。
- (委員)岡山聾学校にはプール施設があるが、現在使われていない。新校舎等整備に伴いプールは整備されないという理解でよいか。また、共用部分が多い印象であり、このままでは、安全な動線が確保できないと思われる。特別教室についても、各教科で別々の教室を確保する必要がある。また、補聴援助システムについては、最も効果的で最新式のものを全ての部屋に整備してほしい。
- (委員)保健室については、様々な疾患を持つ者が在籍するので、障害種別ごとで整備してほしい。また、学校の周辺環境については、点字ブロックや歩車道の段差の整備は必ずお願いしたい。

(委員) 施設関係の詳細な部分は、PTA や学校関係者で検討してほしい。

(事務局) 基本方針の中にも、高い専門性に基づいた教育を継承するとしているが、特別教室については、各教室の稼働率など、効率性の部分も考えながら検討してまいりたい。
プールについては、現状、外部の民間施設を利用しており、今後もそのような方針となる。

(委員) 総事業費の約 50 億円の中には、移転費用や工事に係る防音対策の費用などは含まれているのか。

(事務局) 移転費用や防音対策費用等は含まれていない。

(委員) 新しい学校を開校することになるので、閉校に係るスケジュールや新しい校章や校歌などを決定していくスケジュールなども今後示してもらえたらありがたい。